

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月18日

【評価実施概要】

事業所番号	1270600313
法人名	社会福祉法人清和園
事業所名	セイワ美浜グループホーム
所在地	千葉県千葉市美浜区磯辺2-21-2 (電話) 043-270-0311

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4 千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成20年12月18日	評価確定日	平成21年2月27日

【情報提供票より】(20年12月2日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	8人, 非常勤 7人, 常勤換算 12.4人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り
	2階建ての 2階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000円	その他	理美容(実費), オムツ(実費), 光熱費(16,000円), 紙粘土クラブ(200円), 冬期加算(4,000円), 夏季加算(4,000円)等	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(100,000円) 償却無し			
食材料費	朝食	330円	昼食	400円
	夕食	510円	おやつ	200円
	または1日当たり 1,440円		1ヶ月当たり 43,200円	

(4) 利用者の概要(12月2日現在)

利用者人数	18名	男性	1名	女性	17名
要介護1	4名	要介護2	7名		
要介護3	6名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 85.3歳	最低	82歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	成田医院	バイデンテルクリニック	篠崎医院
---------	------	-------------	------

特定非営利活動法人コミュニティケア研究所

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

千葉市美浜区唯一のグループホームで、特別養護老人ホーム、ショートステイ、デイサービス、ケアハウス、生活支援ハウス、ケアプランセンターが併設された複合施設となっている。また建物内には地域包括支援センター(千葉市あんしんケアセンター)も設置されている。グループホームは建物の2階にあり、2ユニットで、今年から各ユニット2部屋ずつ増えて18人の入居者が生活している。共有空間には畳や炬燵のコーナーがあり、団欒できるよう配慮されている。災害訓練は事業所全体で年4回行い、防火体制も充実しており、入居者の安全が確保されている。年1回行われる夕涼み会には家族も大勢参加し、広い中庭のウッドデッキでバーベキューを楽しんでいる。今後は若い職員のパワーを活かし、地域に根付いたホームを目指すことが期待される。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	「理念の共有と日々の取り組み」や「職員の異動等による影響への配慮」等、改善された項目もあるが、評価が活かされず取り組みが不十分な項目が見受けられた。今後は課題を明確にし、改善シートなどを活用した改善計画をたて、取り組むことが望まれる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価に対する取り組みは、管理者、常勤職員で話し合い、管理者が記載した。全職員が自己評価表に目を通し、日頃のサービスを振り返り、職員間で共有することがサービスの質向上に繋がると思われる。そのためにも全職員参加型の取り組みが期待される。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は4ヶ月に一度の開催である。参加者は入居者家族、元自治会長、介護相談員、地域包括支援センターの介護支援専門員、職員で行い、内容は状況報告や意見、要望を聴取し、みなで話し合っている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族会は作られておらず、家族が意見要望等を言える場所は、面会時や運営推進会議の場になっている。そこで出た意見はきちんと話し合い、運営に反映させるよう努めている。また、年に1回入居者の全家族と個別面談を実施している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入している。近くにある小、中学校の生徒が合唱やプラスバンドの演奏を施設に来て披露してくれる時は入居者も参加し、一緒に交流を図っている。また、地域包括支援センターが主になって開催している体操教室には入居者も参加している。夕食の食材を毎日近くのスーパーに買いに行くことにより、店員が入居者の顔を覚えてくれた。近隣住民が入会しているボランティアの来訪も多い。

## 2. 評価結果 ( 詳細 )

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に職員で話し合い、ホーム独自の理念として「住まう人の笑顔と満足のため 私達は笑顔で親切 丁寧 謙虚な支援を心がけます」を決め、入口、事務所に掲げている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新規採用時には必ず理念の説明を行っている。全職員は入居者の「笑顔」に向け、理念の共有を図っている。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の小、中学校の生徒が施設に来所し、合唱やバンドの演奏を披露してくれる。他にハワイアンや傾聴、歌、散歩同行など多種のボランティアの来訪がある。また、施設内にある地域包括支援センターが行っている体操教室に入居者も参加し、地域との交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は自己評価と外部評価の意義は理解しているが、それを活かした取り組みにまでは至っていない。今回の自己評価は管理者、常勤職員のみで取り組んだ。		自己評価への取り組みは常勤職員のみならず、全員で取り組むことに意義があると思われる。今後は、自己評価、外部評価を活用し課題を明確にし、サービスの質の向上にむけた取り組みも必要と思われる。
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は4ヶ月に1度開催している。参加者は入居者の家族、元治会長、介護相談員、地域包括支援センター、職員で行っており、ホームの状況報告や家族の意見等について話し合っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	今回、グループホーム増設の件で行政へは頻繁に向き、話しあった。相談事があれば、随時出かけている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	居室担当職員は毎月請求書と共に、入居者の日常の様子、ホーム使いなどを家族に送付している。また、大きな行事については、面会時に伝えたり手紙で知らせている。職員の異動については、年1回ウッドデッキで行われる夕涼み会で報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見、苦情などは運営推進会議や面会時に聞くようにしている。そこで出された意見をみんなで話し合い、運営に反映させるよう努めている。尚、年に1回入居者の全家族と個別面談を実施している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内での異動が急に発生することがあり、法人に時間的余裕を持って通告して欲しい旨を伝えている。職員の異動の際は、引き継ぎに時間をかけ、入居者に不安を与えないよう努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内で実施する内部研修の年間スケジュールが立てられており、そこでの研修には全職員が参加している。年2回の日本赤十字の講師による救急救命研修や、併設の特別養護老人ホームの看護師による感染症研修などに参加している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千葉県認知症高齢者グループホーム連絡会には加入しているが、会合に参加した実績はない。また、他のグループホームとの交流も行われていない。		グループホームの質の確保や、自らのサービスを見直す機会としても、他法人や同業者との交流は不可欠と思われる。加入している千葉県認知症高齢者グループホーム連絡会に参加することによって、同業者との交流の糸口が掴められると思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居者が安心してホームで過ごすためには、馴染みの関係作りが大切と考えている。入居前には入居者、家族に見学に来てもらい、早い時期に信頼関係を作れるよう努めている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者からは調理や、洗濯物の干し方、昔の話などを聞くことが多い。入居者が職員の体調を気遣って励まされることもある。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入所前に本人、家族に希望、意向を聞いている。入居後も生活をしていく上で、興味のあること、思いを引き出している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ケアプラン作成時に同席が困難な家族からはアンケートで要望を聞き、計画作成担当者が居室担当者、管理者の意見や要望を取り入れ作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>居室担当者、計画作成担当者、管理者で6か月に1回、介護計画の見直しを行っている。変化が生じた場合は、その都度見直しを行っている。</p>		<p>ケアプランの目標設定期間と介護認定期間にズレがあるケースがある。目標設定期間の見直しが必要と思われる。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院時の送迎、美容院への付き添い、カラオケの好きな入居者と一緒に歌を歌いに行くなど、多機能性を活かした支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医へ通院を希望する入居者には、受診支援を行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期については、ホームでは対応できない旨を入居時に家族に説明している。重度化した場合、家族は同法人の介護福祉施設入所を希望することが多く、できるだけ希望に沿うようにしている。		入居者一人ひとりの終末期の対応について、早い段階から関係者で話し合い、方針を共有することが望まれる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報は鍵のかかるロッカーに保管している。また、入居者に対しての言葉かけは優しく丁寧である。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールは概ね決めているが、入居者のペースに合わせて対応している。近くにスーパーがあり、よく買い物に出かける入居者もいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食、昼食は施設の厨房で調理され、それを入居者と職員で盛り付けをして、配膳をしている。自分で使用した食器は各自で洗っている。また、夕食は午前中に入居者と職員で献立を決め、近くのスーパーへ買い出しに行き、共に調理を行っている。		自立度が高い入居者が多いこともあり、みな黙々と食事をしているようにみえた。職員も一緒に食事を楽しむことが出来るような支援があると良いと思われる。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週2回の入浴だが、毎日の入浴を希望する入居者には対応している。時間も特に決めていない。入浴嫌いの入居者にも体調を観察しタイミングを図り、入浴してもらうようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者は洗濯干し、たたみ、掃除、調理など各々得意な家事を行い、職員はそれを支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気分転換が必要と思われる入居者の散歩や、近くのスーパーへの買い物など、一人ひとりの希望に沿った外出支援を行っている。家族の有志が社会福祉協議会のボランティアに登録しており、外出支援の協力してくれる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員全員が鍵をかける弊害を理解しており、かけないケアに取り組んでいる。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消火訓練、放水訓練、避難訓練など、年4回施設全体で訓練を行っている。また、毎日、防災備品、防火扉、消火器をチェックしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士がカロリー計算をしたバランスの良い食事が提供されている。摂取量については毎日チェックし、個人記録をつけており、水分不足の入居者には補給を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭の広いウッドデッキには洗濯物や布団が干され、一般の家庭のような雰囲気である。窓ガラス越しに入る日差しも程よく、日向ぼっこをしている入居者がいた。フロアのテーブルには季節の花が飾られ、壁には手作りのカレンダーがかけられており、居心地の良い空間になっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具が持ち込まれ、仏壇に毎日お線香をあげている入居者もいる。花が好きな人は居室で鉢植えの花を育てている。各居室にはそれぞれの顔があり、工夫がされている。		